

平成 21(2009)年エイズ発生動向 - 概要 -

厚生労働省エイズ動向委員会

エイズ動向委員会は、3ヶ月ごとに委員会を開催し、都道府県等からの報告に基づき患者発生動向を把握し公表している。平成 21(2009)年 1 年間の発生動向について概要を取りまとめたので報告する。本年は HIV 感染者が 1021 件、エイズ患者 431 件と、新規発生件数は 1452 件で、前年より 105 件の減少であった。

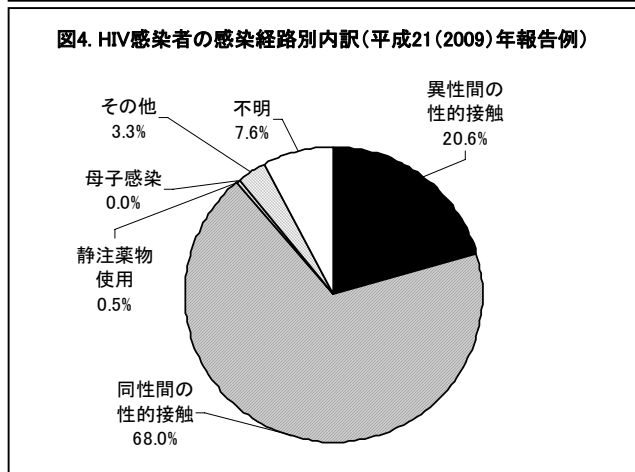
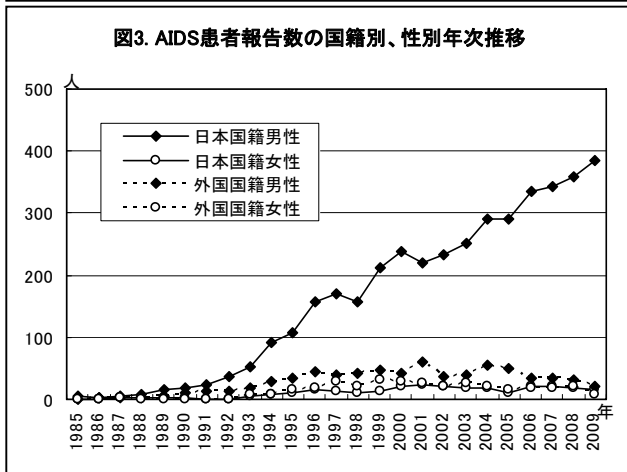
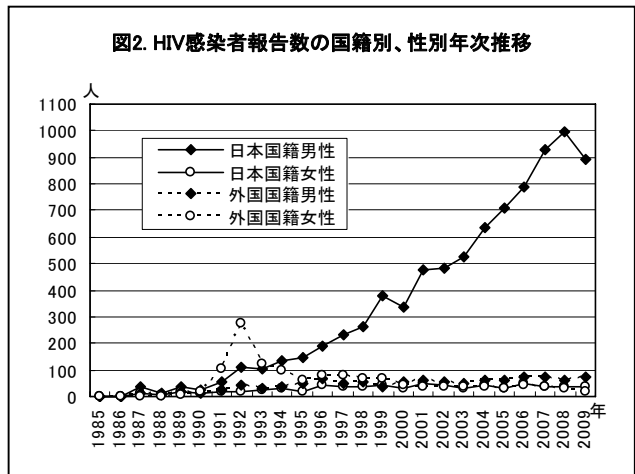
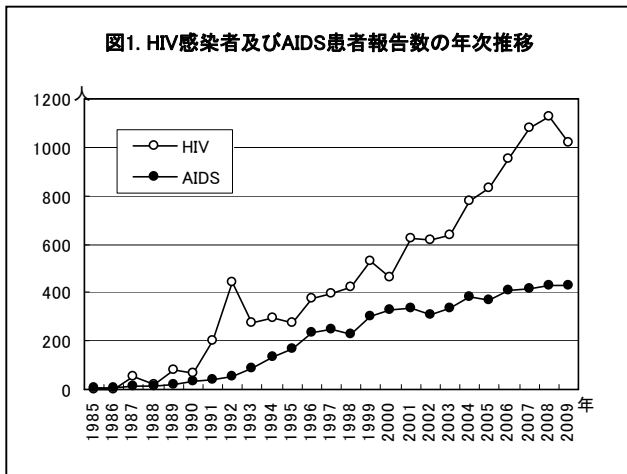
1. 結果

(1) HIV 感染者の報告数

平成 21(2009)年は 1021 件と、前年より 105 件減少し、2008 年(1126 件)、2007 年(1082 件)に次ぐ過去 3 位の報告数であった(図 1)。最近 5 年間の HIV 感染者報告数は 5013 件で、累計の 43.3%を占めている。日本国籍例は 932 件で、このうち男性が 894 件と大半を占めるが、前年比では 105 件少なく、日本国籍女性例は 38 件で前年より 4 件増加。外国国籍例は 89 件、このうち男性が 71 件で前年より 11 件増え、女性が 18 件で前年より 15 件少なかった。経年変化としては、日本国籍男性で増加傾向がみられており、日本国籍女性、外国国籍男性及び女性ではほぼ横ばいの状況にある(図 2)。

(2) AIDS 患者の報告数

平成 21(2009)年は日本国籍、外国国籍合わせて 431 件で前年と同数であった(図 1)。最近 5 年間の AIDS 患者報告数は 2053 件で、累計の 38.5%を占めている。日本国籍例は 401 件で前年(378 件)より 23 件増加し、外国国籍例は 30 件で前年(53 件)より 23 件減少した。日本国籍男性例は前年(359 件)に比して 27 件多い 386 件で、日本国籍女性例は 4 件少ない 15 件であった。経年変化としては、HIV 感染者と同様に、日本国籍男性例で増加が続き、他の国籍・性別報告例は横ばいの状況にある(図 3)。



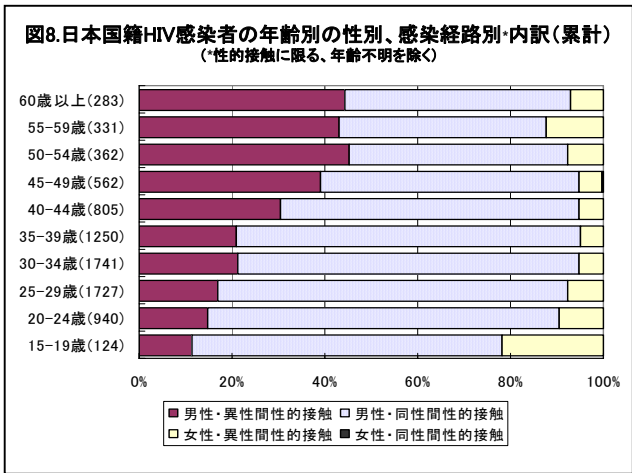
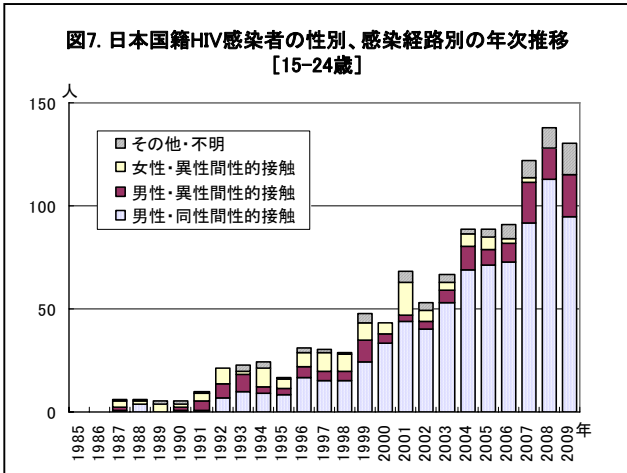
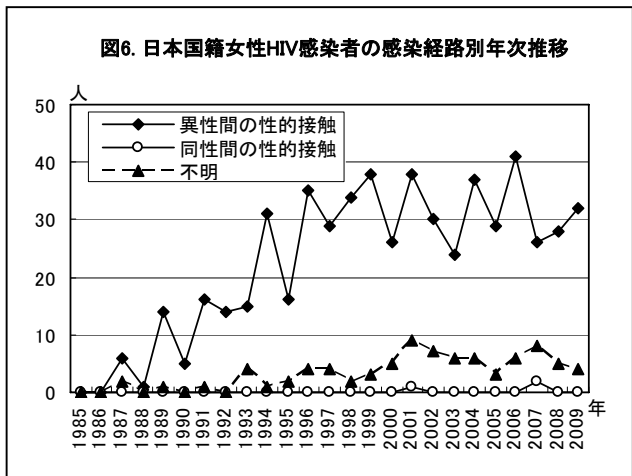
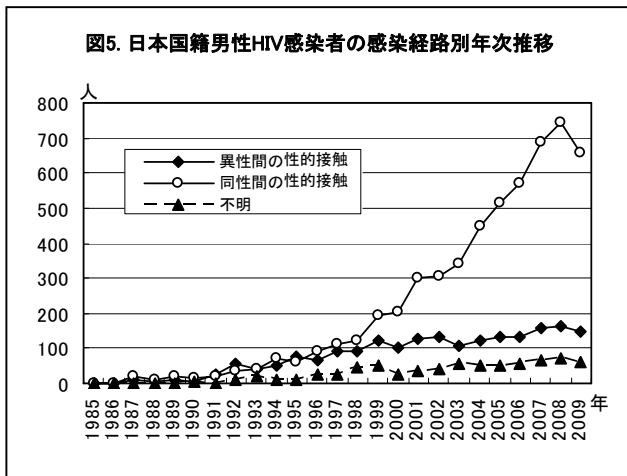
(3) 感染経路

HIV感染者

平成 21 (2009) 年の HIV 感染者報告例の感染経路は、異性間の性的接触が 210 件(20.6%)、同性間の性的接触が 694 件(68.0%)で、性的接触によるものをあわせて 904 件(88.5%)を占めた(図 4)。

日本国籍例では、男性同性間の性的接触は 659 件で、前年(743 件)に比べて 84 件の減少であった。また、異性間の性的接触は男性が 148 件(前年 161 件)、女性が 32 件(前年 28 件)で、経年的には増減はあるものの横ばいの推移である(図 5、6)。

本年の日本国籍 HIV 感染者のうち、男性同性間の性的接触による感染は 15-24 歳の年齢層では 73.1% (図 7)、25-34 歳では 77.5%、35-49 歳では 70.3%を占め、50 歳以上でも 48.2%と異性間の性的接触(27.7%)を超える割合であった。累計でも 49 歳以下では男性同性間の性的接触による感染が過半数を超えている。また、15-19 歳の年齢層では男性同性間の性的接触による感染が大半を占める一方、女性の異性間性的接触の占める割合が他の年齢層と異なり大きい(図 8)。

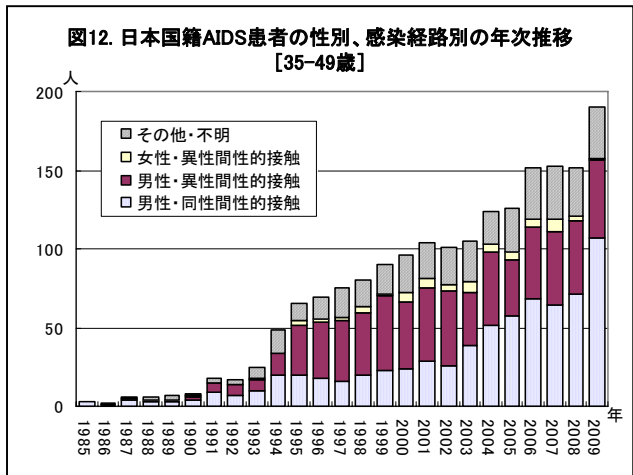
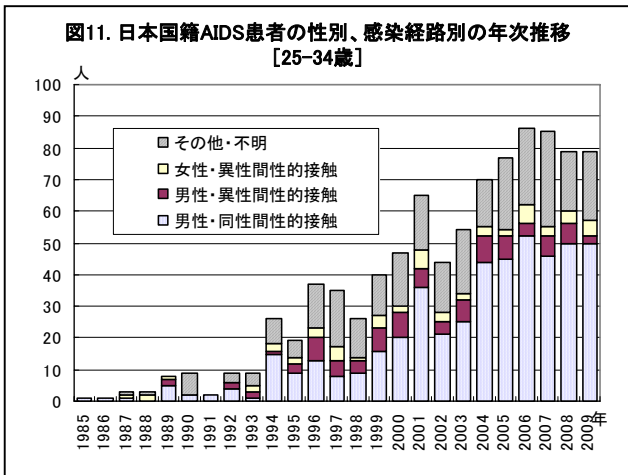
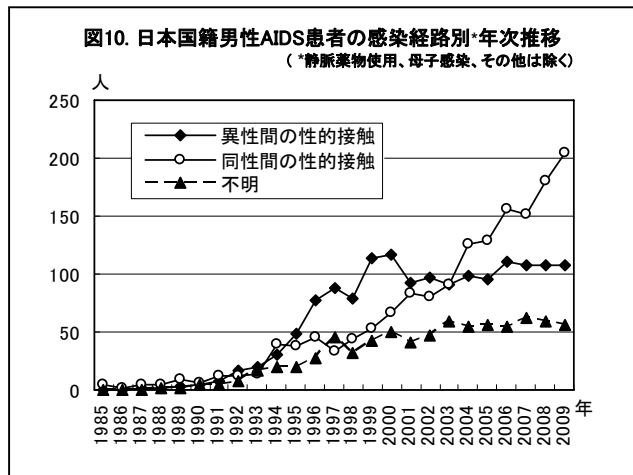
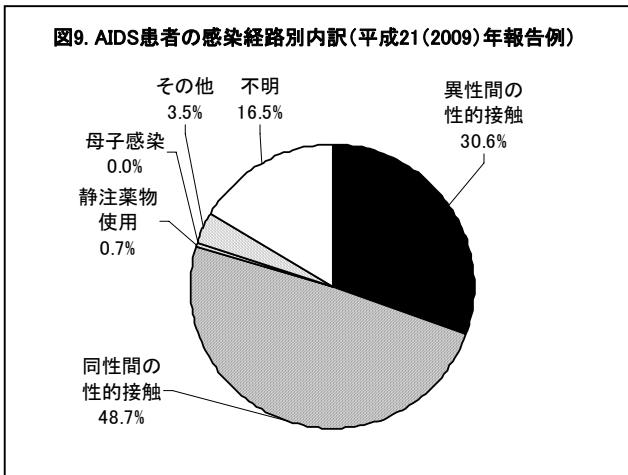


AIDS患者

本年の AIDS 患者報告例の感染経路は、異性間の性的接触による感染が 132 件(30.6%)、同性間の性的接触による感染が 210 件(48.7%)で、性的接触による感染は合わせて 342 件(79.4%)を占めた(図 9)。

日本国籍男性例の感染経路を見ると、同性間性的接触は 205 件(前年 182 件)で 23 件増加し増加傾向が続き、異性間性的接触は 108 件(前年 107 件)で 2000 年以降ほぼ横ばいで推移している(図 10)。年齢階級別では、日本国籍 AIDS 患者は 30 歳代、40 歳代の中高齢層の報告が中心であり、特に 35-49 歳での増加が著しい(図 11、12)。

なお、静注薬物使用や母子感染によるものは HIV 感染者、AIDS 患者ともにいずれも 1%未満にとどまっている(図 4、9)。



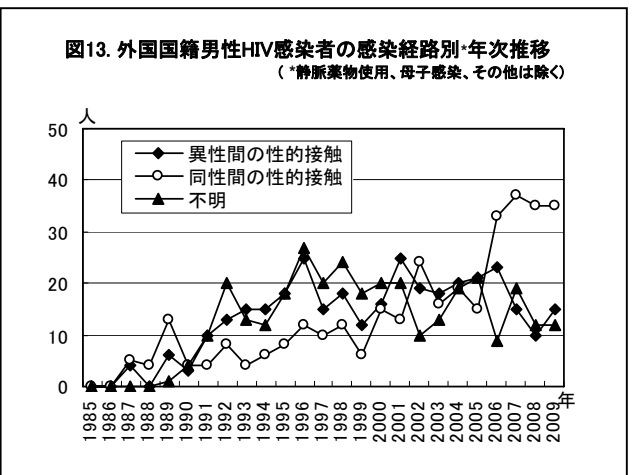
(4)外国国籍報告

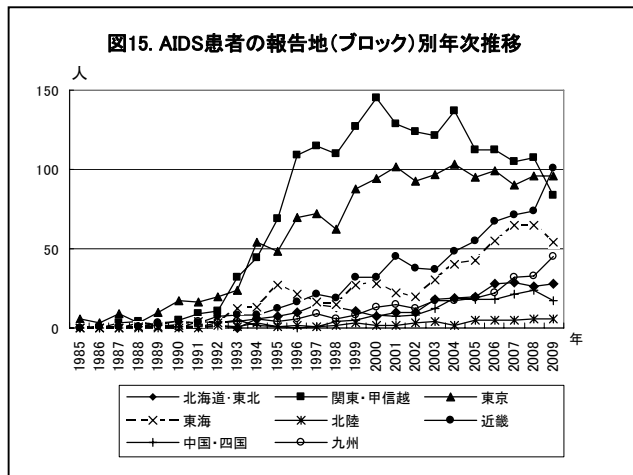
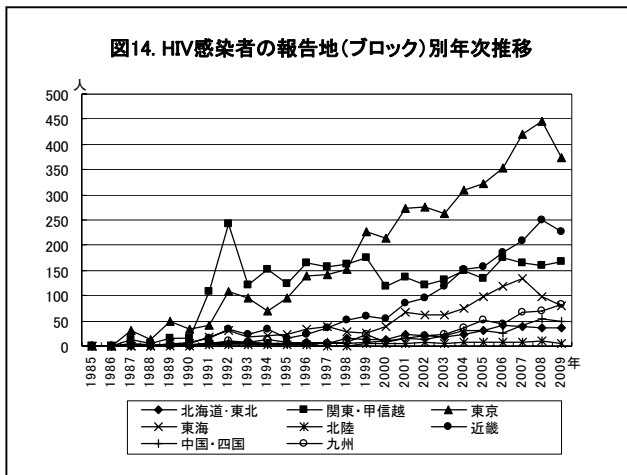
本年の外国国籍の報告例は、HIV 感染者が 89 件(前年 93 件)、AIDS 患者では 30 件(前年 53 件)であった。HIV 感染者、AIDS 患者共に異性間の性的接触による感染例は増減を繰り返しつつ横ばいの状況にある。また、男性同性間の性的接触による HIV 感染者は、2006 年に大きく増加した以降、ほぼ横ばいの状況が続いている(図 13)。外国国籍者については、国内感染例が占める割合も増えつつあり、予防とケアの対策を強化する必要がある。

(5)推定される感染地域および報告地

HIV 感染者の推定感染地域は、全体の 85.6%(874 件)が国内感染で、日本国籍例(932 件)では 89.4%(833 件)を占めていた。AIDS 患者の推定感染地域は全体の 75.9%(327 件)が国内感染例で、日本国籍例では 79.8%を占めている。外国国籍例では国内感染例が 23.3%であったが、経年的には国内感染例の占める割合が増しつつある。

報告地では、HIV 感染者は東京都を含む関東・甲信越ブロックからの報告が多く、累計では 63.5%を占める。同ブロックの報告は 1996 年以降増加傾向にあるが、東京都は本年 374 件(前年 447 件)と 73 件の減少であった。近畿ブロックからの報告数は 1998 年以降増加が続き、特に大阪府からの報告の増加が顕著であるが、本年は 171 件と前年(187 件)に比して減少した。また、東海ブロックは 2001 年以降増加がみられたが、2008 年から減少し、本年は 80 件(前年 98 件)とさらに減少した。その他中国・四国、九州ブロックでは増加傾向があり、特に九州ブロックの報告数は 83 件と東海ブロックを超えた(図 14)。AIDS 患者の報告地別分布は HIV





感染者とはほぼ同様で、累計では東京都を含む関東・甲信越(61.6%)に集中している。経年的には、東京都は減少傾向が見られ、東海ブロックは前年に比して減少していた。しかし近畿及び九州ブロックは増加が続き、他の地域はほぼ横ばいで推移している(図15)。

本年報告数の上位10位は、HIV感染者では東京都、大阪府、神奈川県、愛知県、福岡県、千葉県、兵庫県、埼玉県、広島県、北海道で、AIDS患者では東京都、大阪府、愛知県、神奈川県、千葉県、福岡県、兵庫県、北海道、茨城県、岐阜県、京都府であった(表)。なお、人口10万対では、HIV感染者では山梨県、沖縄県が、AIDS患者では奈良県、沖縄県、滋賀県、栃木県、熊本県が、上位に加わる。

2. まとめ

本年はHIV感染者の報告数は減少し、AIDS患者は前年と同数であった。しかし、経年的には日本国籍男性を中心に、国内での性的接触を推定感染経路とするHIV感染者、AIDS患者報告例の増加傾向が続いている。最近5年間の報告例の累計に占める割合は、HIV感染者では43.3%、AIDS患者では38.5%であり、近年の報告が著しいことがうかがえる。

感染経路では、HIV感染者の68.0%、AIDS患者の48.7%を同性間性的接触による感染例が占め、特に日本国籍男性の同性間性的接触による感染例の増加傾向が著しい。年齢では、HIV感染者は20歳代、30歳代に集中しており、AIDS患者では30歳代から50歳代の中高齢層を中心としている。報告地では、東京都及び関東・甲信越(東京都を除く)、近畿、東海ブロックに加え、北海道・東北、中国・四国、九州ブロックなど、ほとんどの地域で増加傾向にある。

本年はHIV検査件数が約27000件、相談件数が約37000件減少しており、早期発見・早期治療の機会が大幅に失われ、HIV感染者数の減少に関連した可能性が考えられる。HIV感染者、AIDS患者の動向をみると、わが国では早期検査を促進する必要がある。HIV感染の現状と正確な情報を広く国民に向けて広報するとともに、各自治体には地域の発生状況に基づくHIV感染対策への取り組みが求められる。特に、男性同性間の性的接触による感染や外国国籍の感染者・患者については、エイズ予防指針を踏まえ、普及啓発・早期発見・早期治療に向けた対策、HIV陽性者への相談等の支援などの対策を進める必要がある。

表 HIV感染者・AIDS患者報告数上位10位の自治体

| a HIV感染者上位自治体 | | | | | |
|---------------|------|---------|----|------|--------|
| 順位 | 自治体 | 2009報告数 | 順位 | 自治体 | 人口10万対 |
| 1 | 東京都 | 374 | 1 | 東京都 | 2.91 |
| 2 | 大阪府 | 171 | 2 | 大阪府 | 1.94 |
| 3 | 神奈川県 | 57 | 3 | 沖縄県 | 1.09 |
| 4 | 愛知県 | 54 | 4 | 広島県 | 0.84 |
| 5 | 福岡県 | 38 | 5 | 山梨県 | 0.80 |
| 6 | 千葉県 | 34 | 6 | 福岡県 | 0.75 |
| 7 | 兵庫県 | 31 | 7 | 愛知県 | 0.73 |
| 8 | 埼玉県 | 27 | 8 | 神奈川県 | 0.64 |
| 9 | 広島県 | 24 | 9 | 千葉県 | 0.56 |
| 10 | 北海道 | 23 | 10 | 兵庫県 | 0.55 |

| b AIDS患者上位自治体 | | | | | |
|---------------|------|---------|----|-----|--------|
| 順位 | 自治体 | 2009報告数 | 順位 | 自治体 | 人口10万対 |
| 1 | 東京都 | 96 | 1 | 東京都 | 0.75 |
| 2 | 大阪府 | 62 | 2 | 大阪府 | 0.70 |
| 3 | 愛知県 | 32 | 3 | 奈良県 | 0.57 |
| 4 | 神奈川県 | 24 | 4 | 沖縄県 | 0.51 |
| 5 | 千葉県 | 19 | 5 | 滋賀県 | 0.50 |
| 5 | 福岡県 | 19 | 6 | 岐阜県 | 0.48 |
| 7 | 兵庫県 | 12 | 7 | 愛知県 | 0.43 |
| 8 | 北海道 | 11 | 8 | 栃木県 | 0.40 |
| 9 | 茨城県 | 10 | 9 | 熊本県 | 0.38 |
| 9 | 岐阜県 | 10 | 10 | 京都府 | 0.38 |
| 9 | 京都府 | 10 | | | |